

# 社会的スキルが一人旅傾向に与える影響

学生氏名 谷幸咲

指導教員 教員氏名 小林豊

## 研究背景

近年、日本において一人旅を選択する人の増加がみられている。このような旅行行動の変化の背景には、ライフスタイルの多様化に加え、対人ストレスの変化が関係している可能性がある。対人ストレスに関わる重要な個人特性の一つとして社会的スキルが挙げられる。社会的スキルは、他者との関係を円滑にするための能力であり、対人場面での行動や感情調整に関わる重要な要因である。

## 研究目的

本研究の目的は、社会的スキルと一人旅志向性との関係を明らかにすることである。特に、「社会的スキルが低い人ほど一人旅を好む傾向が高い」という仮説を設定し、これを検証することを目的とした。

## 研究方法

ランサーズ登録者 200 名を対象に、アンケートを実施した。一人旅志向性は過去の一人旅経験の時期・回数および将来の一人旅意欲に関する質問から測定した。社会的スキルの測定には KiSS-18 尺度を使用し、5 件法で回答を求めた。尺度の構造を確認するため探索的因子分析を行い、信頼性係数を算出した。その後、社会的スキル得点と一人旅関連項目との関連について統計的分析を行った。

## 分析結果

KiSS-18 の因子分析の結果、既婚者や子どもを持つ人が高い社会的スキルをもつ傾向が確認された。過去の一人旅経験の頻度や最近の一人旅の時期、将来の一人旅意欲と社会的スキルとの間には仮説を支持するような単調な関係は見られなかった。ごく最近に一人旅を経験している人や一人旅回数が並外れて多い人は社会的スキルが低い傾向がみられたが、それを除けばむしろ一人旅経験の多い人のほうが高い社会的スキルを持つ傾向が観察された。

## 考察・結論

調査の結果、仮説は支持されなかったが、社会的スキルと一人旅傾向の間に非単調な関係が存在する可能性が示唆された。本研究の問題点の一つとして、回答者が働き盛りの中年層に集中しているということであり、対人ストレスよりも外的制約が一人旅傾向に強く影響した可能性がある。今後は、年齢層や家族構成を考慮した分析を行うことで、一人旅行動の心理的要因をより詳細に検討する必要がある。